

## 平成19年度3年生皮膚科伊藤担当分試験問題

I. 糖尿病性皮膚潰瘍について( )に適切な言葉を入れなさい。

糖尿病性足潰瘍には、( )によって生じる水疱や鶏眼・胼胝が原因になる場合と、合併する( )によって生じる場合がある。

前者は、( )によって治療するが、後者の治療は( )が必要になることもある。

II. うっ滞性皮膚炎・潰瘍について( )に適切な言葉を入れなさい。

この原因は1次性と2次性の( )が主なものであるが、1次性では( )や( )などの手術治療がある。2次性の主な原因には( )があり、1次性・2次性ともに共通する重要な治療法として( )がある。

III. 植皮について( )に適切な言葉を入れなさい。

1つは( )で、採皮器やカミソリを用いて採皮するが、これには( )しやすいという長所がある。

もう1つの方法は( )で、皮膚を採取した部分は単純縫合する。これは( )という長所がある。

IV. 悪性黒色腫の視診診断として重要なABCDを日本語で解説しなさい。

A:

B:

C:

D:

V. 各文章を読み( )内にその疾患名か、設問の答えを書きなさい。またその疾患を別紙カラー写真から臨床写真(A～ソ)と組織標本写真(1～13)を選んで[ ]に記入しなさい。(臨床写真と組織写真は同一の患者さんのものではありません)・・・まず写真プリントに診断名を書いておくと回答が早い。・・・各小問はすべて正解して得点とする。

1.この母斑は、かつて成長期を過ぎる頃に、二次性腫瘍として( )が高率に発生すると言われていたが、最近では、必ずしも悪性腫瘍が多いのではないとされている。  
この母斑は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は[ ]である。

2.湿疹様紅斑や白斑として始まり、後に湿潤、びらん性局面を呈する。進行すると局面内に小腫瘤がみられ、所属リンパ節転移が生じる。初期では( )と誤診されることがある。  
この腫瘍は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は[ ]である。

3.原因不明だが、紫外線、慢性刺激、慢性炎症、ウイルス、放射線などが関与し、腫瘤、潰瘍を生じる。進行すると悪臭を伴う。( )への転移もしばしば見られ、進行すると肝、肺、骨などへの遠隔転移が生じる。  
この腫瘍は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は[ ]である。

4.短期間にこの皮膚腫瘍の多発と皮膚そう痒症を伴うと( )と呼ばれ、内臓悪性腫瘍の合併率が高い。  
この腫瘍は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は[ ]である。

5.転移しやすく、悪性度の高い腫瘍で、皮膚、粘膜、眼のほか稀に脳軟膜に生じる。この腫瘍の診断のための検査では、( )は、禁忌とすべきである。  
最近では、ダーモスコープでの診断が有用とされており、その写真は[ ]である。  
この腫瘍は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は[ ]である。

6.皮膚癌手術の中では最も多い。約85%は顔面に生じる。一種の過誤腫で、転移は極めて稀である。局所侵襲性は強く、骨まで浸潤する例もある。  
この腫瘍は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は[ ]である。